



徳川美術館 名品コレクション展示室

令和 7 年 (2025) 1 月 4 日(土)～3 月23日(日)

展示期間 A:1/4(土)～1/28(火) B:1/29(水)～2/26(水) C:2/27(木)～3/23(日)

凡例：○は重要美術品を示します。

武家のシンボル ― 武具・刀剣 ―

Nº	名 称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
1	銀箔置白糸威具足	松平通温(尾張家3代綱誠19男)所用	江戸	18	
2	葵紋蒔絵糸巻太刀拵	徳川宗睦(尾張家9代)・斉荘(同家10代)・慶勝(同家14代)所用	江戸	18	A B
3	梨子地葵紋蒔絵糸巻太刀拵	徳川宗睦(尾張家9代)所用	江戸	18	C
4	網代溜塗軍配団扇	徳川綱誠(尾張家3代)所用	江戸	17	A
5	輪宝文金銀泥軍扇	徳川義直(尾張家初代)所用	江戸	17	B C
6	上り藤馬標	徳川義直(尾張家初代)所用	江戸	17	
7	青貝柄槍拵 黒塗鞘付 五本		江戸	18-19	
8	白銀造烏蒔絵毛抜形太刀拵	徳川義宜(尾張家16代)所用	江戸	19	A
9	葵紋蒔絵細太刀拵	徳川治興(尾張家9代宗睦2男)所用	江戸	18-19	B C
10	梨子地刀拵	徳川宗春(尾張家7代)所用	江戸	18	A B
11	梨子地脇指拵	徳川宗春(尾張家7代)所用	江戸	18	A B
12	蠟色塗刀拵	徳川義宜(尾張家16代)所用	江戸	元治元年<1864>	C
13	蠟色塗脇指拵	徳川義宜(尾張家16代)所用	江戸	19	C
14	太刀 銘 備州長船康光	徳川家治(10代将軍)・徳川治行(尾張家9代宗睦嫡子)所持	室町	15	
15	刀 銘 肥前国住人忠吉作	徳川家斉(11代将軍)・徳川斉朝(尾張家10代)所持	江戸	17	
16	脇指 銘 備中水田住 大月八郎左国重	徳川家慶(12代将軍)・徳川斉荘(尾張家12代)・慶勝(同家14代)所持	江戸	17	
17	短刀 銘 兼光	徳川家治(10代将軍)・徳川宗睦(尾張家9代)所持	南北朝	14	
18	火縄銃 三匁五分筒 銘 刃鉄重張 天和三亥年八月吉日 芝辻小兵衛清正(花押)		江戸	天和3年<1683>	A
19	火縄銃 三匁五分筒 銘 渡辺佐次右衛門頼次作		江戸	17	A
20	火縄銃 十匁筒 銘 国友甚兵衛重当作		江戸	17	A
21	唐銅二百目短筒 銘 延宝二年甲寅七月吉日 辻弥兵衛之種作		江戸	延宝2年<1674>	A
22	象牙葵紋蒔絵羽箆形口薬入		江戸	17-18	A
23	葵紋付青漆革胴薬入 附 葵紋付青漆革玉袋		江戸	18-19	A
24	一匁弾鋳形 銘 国友勝左衛門作		江戸	17-18	A
25	三匁五分弾鋳形 銘 二 芝辻小兵衛 三匁五分玉		江戸	17-18	A
26	鋳鍋		江戸	18-19	A
27	大名火消図巻	所三男氏寄贈	江戸	18-19	B C
28	羅紗地葵紋付火事頭巾	徳川慶勝(尾張家14代)着用	江戸	19	B
29	赤羅紗地桐に鳳凰文火事頭巾	徳川宗春(尾張家7代)着用	江戸	18	C
30	紺羅紗地茶臼紋付火事羽織	上田家寄贈	江戸	18	B
31	白羅紗地葵紋付唐獅子牡丹文火事羽織	徳川宗春(尾張家7代)着用	江戸	18	C
32	御腰物元帳 (文政年間) 第一巻 仁ノ部 御大切御道具ノ部		江戸	19	
33	本阿弥光一折紙 寛政参年亥卯月三日 (No.15 刀 銘 肥前国住人忠吉作 附属)		江戸	寛政3年<1791>	
34	亀図三所物 無銘 真乗(後藤家15代)		江戸	18-19	
35	若松万歳図二所物		江戸	18-19	
36	烏帽子に横笛図目貫		江戸	17	
37	桜花図赤銅鐺		江戸	19	
38	雲に三本杉図透鉄鐺	伝徳川家康所用	江戸	17	

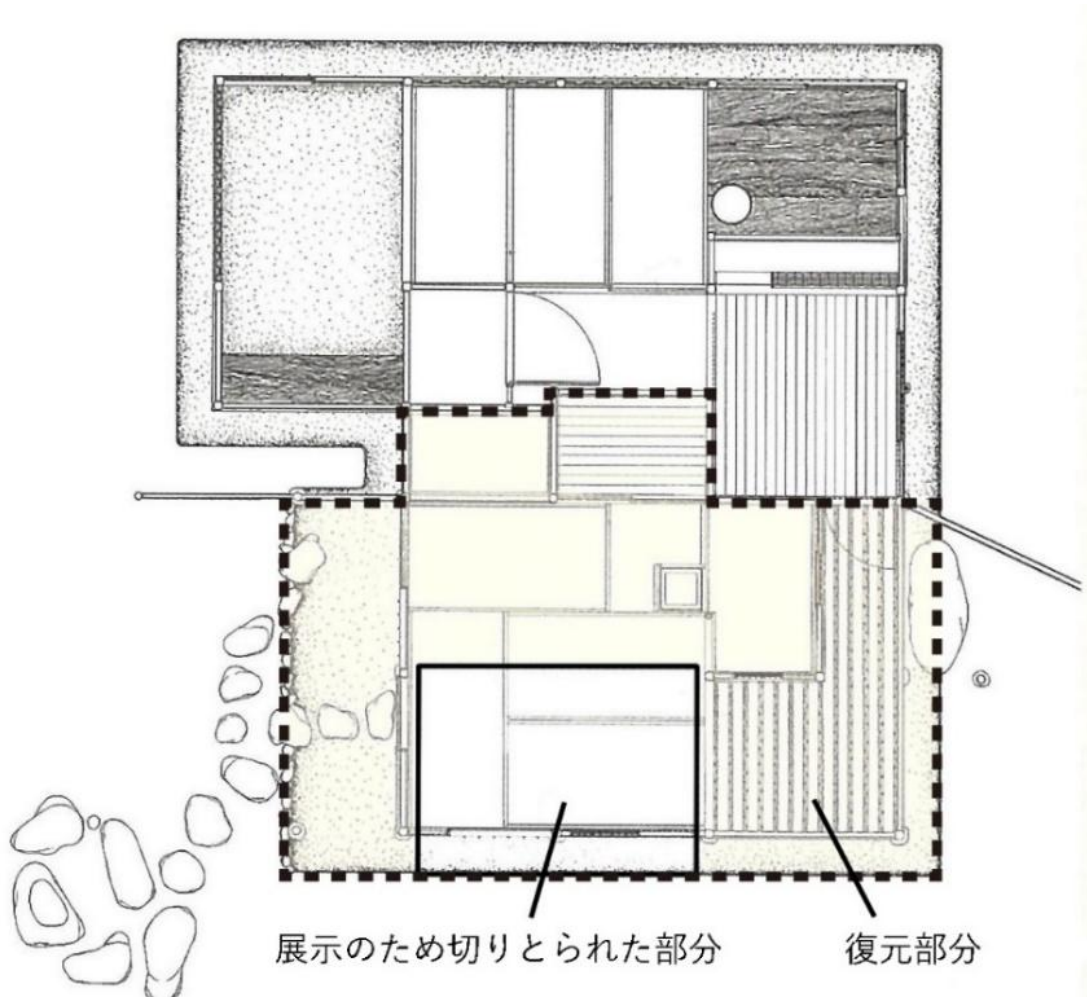
大名の数寄　― 茶の湯 ―

Nº	名	称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
猿面茶室						
1	拾遺集切	壬生忠岑「春たつと」	伝藤原定家筆	鎌倉	13	B
2	古今和歌集切		伝伏見天皇筆	鎌倉	13-14	C
3	和歌懷紙「詠伴松栄久和歌」		後西天皇筆　久曾神昇氏寄贈	江戸	17	A
4	青磁柑子口花生			元-明	14-15	
5	芦屋尾垂釜			江戸	17	
6	伊賀瓢形水指		岡谷家寄贈	桃山－江戸	16-17	
7	唐物細肩衝茶入	銘 一筋なだれ		明	16	
8	藤村庸軒竹茶杓	銘 琴上		江戸	17	A B
9	竹茶杓	銘 遠	徳川宗勝(尾張家8代)命銘	江戸	18	C
10	黒樂茶碗	銘 横槌	伝樂2代目長次郎作	桃山－江戸	16-17	
11	昭和切	古今和歌集「としのうちに」	藤原俊成筆　勅使河原順三氏・千代子氏寄贈	平安	12	A
12	細川幽斎書状	上林久茂宛　卯月十二日		桃山	16-17	B
13	和歌詠草「君かへむ」		木下長嘯子筆	江戸	17	C
14	布袋図	三幅対の内	徳川光友(尾張家2代)筆	江戸	17	A
15	連翹に鶯図		山本梅逸筆	江戸	19	B
16	紙雛図		三条公修賛・田中訥言筆　菱田家寄贈	江戸	19	C
17	古銅細口鬼面一ツ耳花生			江戸	17	
18	青磁算木手花生			南宋	13	
19	古染付手桶形水指		徳川斉荘(尾張家12代)所持	明	16-17	
20	唐物茶壺	銘 橋姫	徳川綱吉(5代将軍)・徳川綱誠(尾張家3代)所持	南宋－元	13-14	
21	唐物大海茶入	銘 丸海	徳川光友(尾張家2代)・継友(同家6代)所持	南宋－元	13-14	
22	瀬戸米市手茶入			室町－桃山	15-16	
23	油滴天目(星建盞)			南宋	12-13	
24	高麗雲鶴茶碗	歌銘 高浜		朝鮮王朝	17	
25	金襴手唐子文仙盞瓶			明	16	1/4～2/21、 3/4～3/23

【特別公開】						
	千利休竹茶杓	銘 泪　大名物	古田織部・徳川家康・徳川義直(尾張家初代)所持	桃山	16	2/22～3/2

【見どころ①　―猿面茶室―

名古屋城二之丸御殿にあった「猿面茶室」を復元している。待庵・如庵と並んで茶室として最も古く注目すべき遺構で、国宝にも指定されていたが、昭和20年(1945)、戦災焼失した。もとは清須城内に営まれていたが、慶長15年(1610)、名古屋城内に移築され、上使の接待場にあてられていたと伝える。明治に至って城内の建築物が払い下げられ、のちに末森入舟山(現・千種区見附町)に移築したが、明治13年(1880)、名古屋博物館(後の愛知県商品陳列館)にこれを寄付、さらに昭和8年(1933)、鶴舞公園内に移設された。



大名の室礼　― 書院飾り ―

Nº	名	称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
広間						
押板飾り						
1	布袋・花鳥図	三幅対	狩野元信・伝正信筆　土屋家伝来	室町－江戸	16-17	A
2	竹に鶴図	三幅対	徳川家治(10代将軍)筆	江戸	18	B
3	福祿寿・猫・鹿図	三幅対	伝狩野探幽筆	江戸	17	C
4	青磁燭台			明	16	
5	青磁菊花文三ツ足香炉			元	14	
6	青磁竹節文中蕪形花生			南宋－元	13-14	
7	堆朱松下人物図香合			明	16-17	A
8	堆朱椿文香合	彫銘「張成造」		明	16	B C
9	火道具			江戸	18	
10	古銅饗餐文分銅形花生	一対		明	15-16	
違棚飾り						
11	古銅鶏香炉			江戸	17-18	
12	堆朱牡丹尾長鳥文香箱			明	15	A
13	堆朱花鳥文沈箱			明	15-16	B C
14	青磁文字文塵壺			元－明	14	
書院床飾り						
15	彫彩漆梅図軸盆			明	16-17	A
16	牡丹菊椿文堆朱軸台			明	16	B C
17	古銅雨龍形筆架		徳川家康・徳川義直(尾張家初代)所用	元	14	
18	雨龍透彫刀子	銘 康継作之		江戸	17	A
19	忍草蒔絵刀子			江戸	17	B C
20	龍文箔絵軸筆	銘 大明万暦年製	徳川義直(尾張家初代)所用	明	16-17	A
21	紅花緑葉梅花文軸筆			明	16	B C
22	金銅向机人物形文鎮		徳川光友(尾張家2代)所用	明	16-17	
23	古銅鴛鴦形水滴			明	16-17	
24	端溪臥牛硯			北宋	12-13	
25	染付高土観月図硯屏			明	16-17	
26	紫石卦算	二対の内		江戸	19	
27	堆朱騎馬人物図印籠			江戸	19	
28	古銅鳳凰注口仙蓋瓶			明	15-16	
鎖の間						
上段の間				高麗	13-14	
1	渭原円硯				16	
2	鉄切合風炉・釜	辻與次郎作			14-15	
3	唐銅花鳥文鍍金水指				12-13	
4	砂張砧形杓立				18	
5	唐銅銀象嵌建水				18	
6	唐銅穗屋香炉蓋置				18	
次の間						
7	一行書「山呼萬歳声」		徳川慶臧(尾張家13代)筆	江戸	弘化4年<1847>	A
8	一行書「春物自清美」		徳川義宜(尾張家16代)筆	明治	19	B
9	一行書「長松下當有清風」		徳川斉温(尾張家11代)筆	江戸	19	C
10	唐銅玉取獅子香炉			江戸	18-19	
11	亀甲口釜		大西浄寿(大西家11代)作	江戸	19	
12	唐物自在釜掛			明	16	
13	葵紋散蒔絵棗			江戸	18	A
14	堆朱樹下人物図中次			明	16	B C
15	熊川茶碗			朝鮮王朝	17	
16	薩摩太鼓形水指			江戸	18	
17	南蛮メ切建水			東南アジア	16-17	

【見どころ②　―鎖の間―】
天井から炉の上に鎖を吊って釜が掛けられるようにしてあったところからこの名がある。この部屋では四季を通じて釣釜がもちいられた。茶室と書院（広間）の中間に位置する座敷で、性格的には書院に属し、接待などに半ば公式的に使われた。

武家の式楽　－ 能 －

Nº	名	称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
1	能面	白式尉	伝元休満総作	江戸	18	A
2	能面	黒式尉		江戸	17-18	A
3	能面	喝食　焼印「天下一河内」	河内大掾家重作	江戸	17	B
4	能面	一角仙人		江戸	18-19	B
5	能面	曲見　銘 元利栄満(花押)		江戸	17-18	C
6	能面	長霊癒見		江戸	18	C
能舞台						
7	茶地	蜀江文翁狩衣	【見どころ③　－能舞台－】 御殿の広間の前庭には能舞台が設けられており、慶事や公式行事の際には必ず能が演じられ、それを見ながら宴は進められた。そのため大名家には能役者が召抱えられ、各種の曲目に応じられるように、いろいろな装束・能狂言面・小道具が備えられていた。 正月2日(後に3日)には幕府で「謡初め」が行われ、大名家でも年中行事とされた。大名自身も謡い、時には自ら舞うこともあり、能は必須の教養とされていた。	江戸	19	A
8	赤地	亀甲文金襴袷狩衣		江戸	18	C
9	紫地	二葉葵文金襴単狩衣		江戸	19	B
10	萌黄地	檜扇に仙桃文金襴長絹		江戸	18	C
11	浅葱地	唐花文金襴単法被		江戸	18-19	A
12	白地	牡丹唐草文金襴袷法被		江戸	18	B
13	白地	切金に鶴亀文掛直垂		江戸	18-19	A
14	染分	梅尽文掛素袍		江戸	19	B
15	萌黄地	蜀江に蕨・花菱・蝶の丸文掛素袍		江戸	18	C
16	紫・紅・水色	段霞に菊・桐・火焰太鼓文唐織		江戸	19	A
17	紅・白	段簾に花の丸文唐織		江戸	18	C
18	紅地	九曜星菱に菊花文厚板唐織		江戸	18	B
19	花色・萌黄・茶・白	小格子厚板		江戸	19	A
20	紺地	花菱亀甲に龍の丸文厚板		江戸	18	C
21	色々	段緋入熨斗目		江戸	18	B
22	葵紋	紗綾形時絵面箱		江戸	17	A
23	鈴			江戸	18-19	A
24	水晶	数珠		江戸	19	B C
25	苛高	数珠		江戸	19	B C
26	僧用	数珠		江戸	19	B C
27	紺地	花唐草文金襴角帽子		江戸	17-18	B
28	萌黄地	花唐草文長範頭巾		江戸	18	C

大名の雅び　－ 奥道具 －

Nº	指定	名	称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
1	○	十二ヶ月図	屏風　六曲一双	田中訥言筆　岡谷家寄贈	江戸	19	A
2	○	巖島・松島図	屏風　六曲一双	土佐光起筆	江戸	17	B
3		唐詩	屏風　六曲一双	池大雅筆　岡谷家寄贈	江戸	18	C
4		尚齒会詩	残巻	伝三条公忠筆	鎌倉	13-14	A
5		源氏物語	拔書　早蕨	尊円法親王筆	南北朝	14	A
6		文正草子	絵巻　上巻	俊恭院福君(尾張家11代齐温継室)所用	江戸	17	B
7		和漢八景図	絵巻　二巻	狩野洞白(愛信)筆　淑姫(11代将軍徳川家斉長女)所用　個人蔵	江戸	19	C
8		菊折枝	時絵香炉箱	俊恭院福君(尾張家11代齐温継室)所用	江戸	19	A
9		染付磁器	入花蝶時絵菓子簞笥	徳川良子(尾張家18代義礼夫人)所用　齐藤芳克氏寄贈	江戸－明治	19	B C
10		住吉物語	絵巻　二巻の内　上巻	個人蔵	室町	16	A
11		藤袋草子	絵巻　二巻の内　下巻	個人蔵	江戸	17	A
12		梅鉢文	散時絵櫛箱		江戸	17	B C
13		梅鉢	唐草時絵角赤手箱		江戸	17	B C
14		桜鉄線	唐草時絵提重	齐藤芳克氏寄贈	江戸	18-19	B C
15		松竹梅	山水時絵香棚		江戸	19	B C

【見どころ④　－婚礼調度－】
奥道具の代表は、大名家に嫁いだ姫君たちが持参した婚礼調度である。婚礼は武家にとって政治力や財力、家の格式を象徴する、最も華やかで重大な儀式であった。婚礼の際は、身の回りで用いられる調度類一式が、統一された意匠のもとに用意された。豪華な蒔絵の調度品（香道具・化粧道具・文房具・飲食器・遊戯具・楽器など）をはじめ、絵画や書籍といった品々も武家女性の教養やたしなみに必須であり、その種類は多岐にわたる。